

# 普及だより



優良系統をJAながみねと共同調査

## 新しい普及指導計画(H30年度～H32年度)をスタートさせます

海草振興局農業水産振興課では、平成30年度から新しい普及指導計画に取り組みます。  
普及指導計画は、農業水産振興課が取り組む活動計画で、3年ごとに見直しながら進めます。

新しい普及指導計画では、以下の取り組みを進めます。

### 【重点課題】

- 次世代につなぐ下津みかん産地への取組
  - ・将来ビジョンづくり
  - ・貯蔵に適した優良系統の導入推進
  - ・担い手対策

### 【一般課題】

- 新たな新規就農支援体制の構築
- ショウガの安定生産に向けた取り組み



新しい普及指導計画では、生産者の方々との直接の接点を活かして、担い手や新規就農者への支援体制の確立などにスポットを当て、職員一同取り組んでいきますので、ご支援ご協力をお願いします。

## コナガの防除対策

近年、和歌山市内(河西、布引地区)の施設で栽培されているコマツナで、コナガに対する主要農薬の防除効果が低下してきており問題となっています。

このことから、平成29年度より和歌山県農業試験場が中心となり、JAわかやま、農業水産振興課と連携して、防除対策の検討を始めました。

検討内容は以下のとおりで3ヶ年計画。

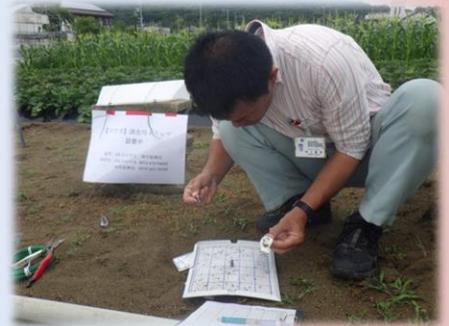
- ・コナガの発生消長と被害実態の解明
- ・有効農薬の検討
- ・性フェロモン剤や防虫ネットを利用した防除技術の確立
- ・総合防除対策の確立

河西地区では防虫ネットを利用した侵入防止対策、布引地区においては、交信攪乱用合成性フェロモン剤「コナガコンープラス」を設置し、防除効果の検討をしています。

コナガの防除については、化学農薬だけに頼った防除では更なる薬剤抵抗性の発達が懸念されるため、今後、性フェロモン剤や防虫ネットの活用など、総合的な防除対策の検討を進めていきます。



コナガコンープラスの設置



フェロモントラップによる発生消長の調査

## イチジク株枯病対策

イチジク産地である和歌山市山東地区では、近年、重要病害であるイチジク株枯病が広がりつつあり、その対策に苦慮しています。株枯病は発病すると最終的には枯死してしまい、同じ場所に補植しても成木になる前に枯れることもあるため、安定的な生産が難しくなります。

農業水産振興課では平成27年度より3年間、JAわかやま、かき・もも研究所と協力して和歌山市山東地区におけるイチジク株枯病防除対策の確立に向けて以下の取組を進めてきました。

### 取組内容

- ・全園調査(株枯病発生状況の確認)
- ・イチジク抵抗性台木「キバル」の有効性の検討
- ・株枯病菌を保菌するアイノキクイムシ防除対策の検討等

これらの取組結果をもとに、イチジク株枯病防除策マニュアル作成し、JA生産部会員を対象に配布しています。

マニュアルを参考に防除に努めていただき、感染拡大を防ぎましょう。



イチジク株枯病



イチジク株枯病対策に関する研修会

# 受賞おめでとうございます！

## 【和歌山県農林水産業賞】



山本 薫氏(和歌山市)

最先端の農業機械を導入するなど、効率的な大規模経営を展開し、布引大根のブランド化の中心的役割を果たすなど、地域農業の振興に大きく寄与したことが認められました。



峯本 稔氏(海南市)

中山間地域において果樹栽培と棚田における水稲の複合経営に取り組み、海老谷の「棚田のオーナー制度」をリード。景観を守りながら都市住民との交流を進めるなど、地域農業の振興に大きく寄与したことが認められました。

## 【和歌山県食育推進表彰】



### 和海地方4Hクラブ連絡協議会

平成28年度から行っている幼稚園や小学校での農業体験を通じた食育活動が認められました。

## 和海地方女性農業者の交流会を開催！

新規就農者を対象に研修会を毎年実施していますが、女性の参加は少なく、女性の新規就農者から「近くに同世代の女性農業者はいなくて、話す機会もない」との声もあり、まずは一度、点在する若手の女性農業者をつなぐ機会をつくってみようと昨年末に海南市下津町の『げんき大崎館かざまち』で交流会を開催しました。

新規就農者を中心とした子連れOKの小規模開催でしたが、地域食材をたっぷり使ったランチ&スイーツとともに、農業経営上での疑問や地域の魅力等について楽しく意見交換をしました。

参加者からは、「日頃の疑問を気軽に話し合える仲間に出会えて良かった」「現地見学や研修等も希望したい」「継続的に交流したい」という感想をいただきました。

平成30年度も、このような若手女性農業者対象の研修会を企画しますので、対象となる方がおられましたら、ご連絡下さい♪

今後も、地域づくり等の拠点施設での開催を考えておりますので、おすすめの場所情報もお寄せください。



<連絡先>

農業水産振興課 普及グループ (直通)073-441-3378

# 鳥獣害対策(イノシシ)の取組について

海南市下津町笠畑地区で地元農家やJAながみねと連携し、下記現地実証を行いました。

## 【異なる誘引エサによる捕獲実証】

これまでに安価な誘引エサとして選定した米ぬか、小米、みりん粕、酒粕の摂食行動を調査しました。

この結果、米ぬか、小米にみりん粕や酒粕を添加すると誘引効果が高まりました。ただし、酒粕はタヌキの摂食が多く、イノシシの誘引エサには不向きと考えられました。



4種類の誘引エサによる捕獲実証

## 【鳥獣撃退器による防護対策実証】

昨年度に選定した鳥獣撃退器(商品名「番」)を、6月下旬にイノシシの掘り起こしがみられたミカン園場に設置し、センサーカメラで監視しました。

この結果、約2ヶ月程度の忌避効果が確認できました(ただし、忌避装置は使用場面によって効果に差があり、継続使用で馴れが生じやすくなります)。

この鳥獣撃退器については、今後、ヒヨドリ等鳥類に対する効果を現地実証する予定です。



音と光で鳥獣を撃退する「番」

# 春の農作業安全確認運動について

春作業が行われる3月から5月は、春の農作業安全確認運動月間です。農作業中の死亡事故は、全国で年間約350件発生しています。年間を通じて見ると、3月が最も事故発生が多く、次いで4月が多くなっています。中でも乗用型トラクターの走行中の転倒・転落による死亡事故が全体の約60%を占めています。事故防止のためには対策と準備が重要です。

## 【トラクター事故防止の3つのポイント】

1. シートベルトの着用と安全キャブ・フレームの装着
2. ブレーキ連結の確認
3. 低速車マークや反射板の取り付け

この他にも、耕運機をバックさせていたところ木と機体の間に挟まれたり、草刈り機の使用中に足を滑らせて負傷するなどの事故が発生しています。農作業時には、一人ひとりが安全意識を高め、また、仲間との声かけを行い、農作業事故防止に取り組みましょう。



平成30年度人事異動による転出入についてお知らせします。

出			入		
旧職名	氏名	新職名	旧職名	氏名	新職名
課長	上山 茂文	農林水産政策局食品流通課 課長補佐	農業生産局経営支援課 担い手育成班長	小畑 利光	課長
主任	神谷 桂	県農林大学校准教授	有田振興局農林水産振興部主任	大橋 真人	主任
主査	塩崎 博史	農業生産局経営支援課 主査	農業生産局経営支援課 主査	嶋田 勝友	主査
主査	井上 博仁	農業生産局経営支援課 主査	水産局水産振興課 主査	古川 豊和	主査
主査	今井 幸子	那賀振興局農林水産振興部 主査	県果樹試験場 主査研究員	衛藤 夏葉	主査
技師	賀集 健太	県水産試験場 研究員	県農業試験場 研究員	佐々木 規衣	技師